

(5) 自己評価アンケートの実施

生徒にどのような力が、どの程度身に付いたのかを調査するため、年間3回の自己評価アンケートを実施することにした。1回目は、4月に資料5のアンケートを実施し、生徒の課題を把握するために活用した。2回目は、9月に資料12のアンケートを実施した。生徒自身が1年の前半の授業や学校行事等への取組を振り返り、1年の後半で伸ばしたい力を記入することで、自己変容を促す手立てとした。3回目は、2月に資料13のアンケートを実施する予定である。身に付けた力は、どのような場面でのような行動により高まったのかを記入させることで、個々の活動の成果を集約し、生徒の成長実感や進路選択につながるポートフォリオの役割も果たすアンケートを目指した。

今後は、これらのアンケート結果を分析することで学校教育活動の改善を図り、一連のPDCAサイクルを確立させていきたい。

資料12 自己評価アンケート（9月実施分）

松陽ブライド～9つの力～ 自己評価【9月実施分】

① 今年度前半の自分の取組（授業・学校行事・部活動・ボランティア活動等）を振り返り、松陽ブライド～9つの力～を自己評価してみよう！評価の欄に○を付けて下さい。
【1：伸びなかった 2：あまり伸びなかった 3：やや伸びた 4：伸びた】

向学【自ら主体的に学ぶ生徒】	自己評価
①自奏力 自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長することができる力	1・2・3・4
②基礎力 基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力	1・2・3・4
③分析力 必要な情報を収集し、適切に判断・処理できる力	1・2・3・4

高雅【創造性豊かな生徒】	自己評価
④見聞力 多様な価値観を尊重し、世の中の情報や意見を受け入れ、学ぶことができる力	1・2・3・4
⑤創造力 課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力	1・2・3・4
⑥自彰力 達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインすることができる力	1・2・3・4

貢献【社会に貢献できる生徒】	自己評価
⑦連携力 対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力	1・2・3・4
⑧発信力 自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝えることができる力	1・2・3・4
⑨寄与力 社会に関与する姿勢を持ち、学校や地域の取り組みに積極的に貢献することができる力	1・2・3・4

② 今後、伸ばしたいと思っている力を3つ選び、○をつけてください。

自奏力・基礎力・分析力・見聞力・創造力・自彰力・連携力・発信力・寄与力

年 組 番 氏名

資料13 自己評価アンケート（2月実施分）

松陽ブライド～9つの力～ 自己評価【2月実施分】

① 1年間を振り返り、身に付いた（高まった）と思う力を3つ選び左の欄に○を付けて下さい。（自分で判断が難しい場合は、友達と確認しあってもよいです）
② ○を付けた力については、どのような場面で身に付けた（高まった）のか1つ選び、□に印を付けて下さい。また具体的な行動（根拠）を記入して下さい。

自奏力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長することができる力	具体的な行動（根拠）を記入
基礎力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力することができる力	具体的な行動（根拠）を記入
分析力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
必要な情報を収集し、適切に判断・処理できる力	具体的な行動（根拠）を記入
見聞力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
多様な価値観を尊重し、世の中の情報や意見を受け入れ、学ぶことができる力	具体的な行動（根拠）を記入
創造力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力	具体的な行動（根拠）を記入
自彰力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインすることができる力	具体的な行動（根拠）を記入
連携力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力	具体的な行動（根拠）を記入
発信力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝えることができる力	具体的な行動（根拠）を記入
寄与力	□教科 □学校行事 □部活動 □その他（ ）
社会に関与する姿勢を持ち、学校や地域の取り組みに積極的に貢献することができる力	具体的な行動（根拠）を記入

2 研究開発系の取組

(1) 研究開発通信の発行

校内研究の進捗状況や各教科の取組状況等を研究開発係でまとめ、定期的に研究開発通信を発行している。通信の内容は、資料14のように、研究に関することだけではなく、カリマネ策定委員会の取組状況や書籍等の有益な情報も発信している。職員全体で情報を共有することにより、全職員で研究に取り組む雰囲気づくりにつながることができた。

資料14 研究開発通信の内容

No	内容	No	内容
1	研究の方向性	6	単元配列表の作成
2	研究の内容	7	研究授業報告
3	パフォーマンス課題	8	指導と評価の一体化
4	自己評価アンケート（4月）分析	9	研究授業用SSTP
5	SSTP活用方法	10	自己評価アンケート（9月）分析

通信 No. 1 研究の方向性

☆☆研究開発通信☆☆No.1 令和3年4月19日

みなさんこんにちは！研究開発の松山です。昨年度からはじめた研究開発通信ですが、今年度も気が向いたときに発行いたしますので、お暇なときに読んで下さい。まずは、新しく赴任された先生方は、研究主題と今年度の研究計画を確認して下さい。他の先生方も研究の方向性の確認をお願いします。読んでおからの通り、今年度からの研究は、**カリキュラム・マネジメント**に基づいた内容となっています。研究主題の「目標」とは、生徒に「**松陰ブライド～9つの力～**」を身に付けさせることを指します。カリマネ委員会や他の係とも連携しながら研究をすすめ、6教科だけでなく、学校全体で取り組めればと考えています。

今年度の目標は「**生徒も教師も主体的に学ぼう！**」です。具体的には、**パフォーマンス課題**の研究や**單元配列表**の作成を行ってもらう予定です。教師が目標をもって学び続ける姿こそが、生徒たちにとって最良の教室環境になるのだと思います。（ある本から抜粋）1年間ご協力をお願いします。

I 研究主題	
生徒に身に付けさせたい資質・能力を教科等横断的に育成する研究 —目標・指導・評価の一体化を実現する取組を通して—	
II 3年間の研究計画	
年度	主な内容
令和3年度	- 生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化と共有、單元配列表等の作成 - 生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための課題設定の研究と開発 - 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和4年度	- 教科等横断的な視点の單元計画や評価問題の作成 - 生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための評価方法の研究と開発 - 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和5年度	- 生徒に身に付けさせたい資質・能力の検証 2年間の研究及び検証結果を踏まえた更なる指導と評価の工夫・改善 - 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証、まとめ
III 今年度の研究計画	
①生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化と共有、單元配列表等の作成	②生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための課題設定の研究と開発
- 学びのグランドデザイン作成（カリマネ委員会と連携） - 自己評価表（生徒対象）作成（カリマネ委員会と連携） - 單元配列表・シラバスの作成（教務課係と連携）	- パフォーマンス課題の研究（各教科で研究） - SSTP (Shoyo Simple Teaching Plan) の活用（今年度版を準備中）
	③研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
	- 自己評価アンケート（生徒対象）の実施※キャリアパスポートとの連携を検討中 - 職員アンケート実施 - アンケート分析

通信 No. 3 パフォーマンス課題

☆☆研究開発通信☆☆No.3 令和3年5月18日

★パフォーマンス課題特選

今回は、今年度、各教科で研究に取り組んでもらうパフォーマンス課題について特選したいと思います。確認になりますが、**パフォーマンス課題とは、複数の知識やスキルを総合的に使いこなすことを求めるような複雑な課題**を意味します。では、どのような課題を設定すればよいのでしょうか？

（パフォーマンス課題となるような学習活動の例）

- まとまった文章を書く。
- リーフレットを作る。
- プレゼンテーションをする。
- 観察記録を書く。
- 曲を演奏する。
- 学んだ知識・スキルを応用して問題解決に取り組む。（作品をつくる）
- 根拠を示しつつ主張を述べる。
- 現象を説明する。証明する。
- 実験を実施・計画・報告する。
- 企画を立てる。
- 試合をする。

学習活動の例でわかるように、これまでも私たちが、たまたま授業で実施してきたような活動ですね。大切なのは、**課題解決を通して、生徒にどのような資質・能力（松陰ブライド～9つの力～）を身に付けさせたいかを明確化すること**です。また、單元の中にどのように位置付けられるか検討する必要があります。

★パフォーマンス課題のシナリオを考える

パフォーマンス課題を設定するにあたっては、**実生活や実社会を想定した課題設定**を研究してみましょう。具体的には、「**本質的な問いを学習者自身が問わねばならないようなシナリオを設定して、パフォーマンス課題を考察する**」ということです。以下に実際に私が実施した授業を紹介いたします。（見本にはならないかもしれませんが...）また、シナリオに絡り込むべき要素を意識するとよい課題が見つかるようです。

（実践例・3年物理・光の干渉）

あなたは、私立科学館のアルバイトとして、ある実験講座を実施している講師のアシスタントを友達と二人で務めることになりました。実験講座終了後に小学6年生の賢そうな男子からシャボン玉が色づく理由を聞かれました。講師は不在です。あなたはどのように返答しますか？

（シナリオに絡り込むべき要素）

- ① 何が目的か？ シャボン玉が色づく理由を他者に説明する。
- ② 担う役割は何か？ 実験講座のアシスタント
- ③ 誰が相手か？ 小学6年生の男子
- ④ 想定されている状況は？ シャボン玉が色づく理由を小学6年生にわかりやすく説明する。
- ⑤ 生み出すべき作品・実演は何か？ 既習知識を新しい情報と関連付けて整理し、他者に説明する。
- ⑥ 評価の観点とは？ 分析力、発信力、連係力

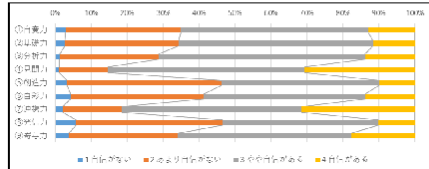
通信 No. 4 自己評価アンケート分析

☆☆研究開発通信☆☆No.4 令和3年5月21日

★SP9(松陰ブライド～9つの力～)自己評価アンケート結果

先日、全校生徒対象に実施した自己評価アンケートの結果ができました。集計へのご協力ありがとうございました。「見聞力」や「連携力」には自信を持っている生徒が多い一方、「創造力」や「発信力」には自信を持っていない生徒が多いことがわかりました。各主任の先生方に分析をしていただいた資料も別で配付しておりますので、ぜひご覧下さい。さて、係では「松陰ブライド～9つの力～」を略して「SP9」と呼ぶことにしました。

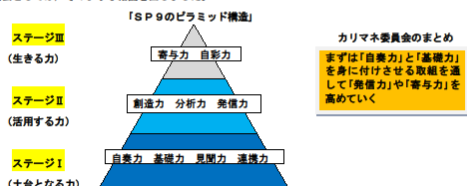
「SP9自己評価アンケート結果」



★カリマネ委員会のまとめ

各主任の先生方の分析をまとめると、「見聞力」など**受動的な力は高まっているが**、「発信力」「自働力」「創造力」など**能動的な力が不足している**という意見でした。それは、教師側から感じている印象とも一致します。

また、SP9はそれぞれが独立した力ではなく、ピラミッド構造のように身に付く力ではないかということもわかってきました。まずは、「土台となる力」を身に付けなければ「活用する力」も身に付かず、「寄与力」や「影響力」など、「生きる力」も高まらないという考えです。よって、「**土台となる力**」のうち**本校生徒に不足している「自働力」と「基礎力」を高めることが、その他の力を身に付ける前提**ではないでしょうか？カリマネ委員会としては、そのような結論を出しました。



通信 No. 7 研究授業報告

☆☆研究開発通信☆☆No.7 令和3年7月18日

★研究授業紹介(高校教育課訪問)

7月14日（水）に高校教育課訪問にもなう研究授業が実施されました。「ICTの効果的な活用、活用場面の研究」というテーマで、国語科の村田先生と保健体育科の星原先生が授業を行いました。お二人ともタブレットを効果的に活用した授業を実践しており、参加者にとって大変勉強になる研究授業でした。



★古典B(2年8組) 故事・寓話「推敲」

【学習課題】「推」と「敲」のそれぞれの作品を読み比べよう。



★体育(3年7・8組) バスケットボール

【学習課題】友達が、正しいフォームで正確にシュートを打てるようになるために、どこをどのように改善すればよいかアドバイスしよう。



(2) S S T P（研究授業用）の開発

令和3年度からは、研究授業用のS S T Pも開発した。新しいS S T Pは、新学習指導要領に即した形式となり、来年度に研究を予定している評価及びその手順を取り入れた形式とした。研究副主題「目標・指導・評価の一体化」を実現するための学習指導案として、今回の公開授業でも使用することとしている。

S S T P（研究授業用）

S S T P (Shoyo Simple Teaching Plan)				単元デザイン	
教科・科目			学科・コース		
単元名					
単元目標					
課題					
単元の中心となる問い					
評価規準 (B段階)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	SP9 基	見 創 分 発	奏 彩 連 寄		
評価場面 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
単元の 指導計画	時	学習活動		指導と評価の観点	
				知	思 能 SP9
	1				
	2				
	3				
	4				

単元デザイン（表面）

観点別の評価規準は、B段階とし、これより上がA、満たしていない場合はCとする。評価の観点では、形成的評価を○、総括的評価を◎とした。

S S T P (Shoyo Simple Teaching Plan)				授業デザイン	
日時			指導者		
学級			場所		
単元名					
課題					
本時の 実際	過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	SP9	
	導入 (10分)				
	展開 (30分)				
	まとめ (10分)				

授業デザイン（裏面）

資質・能力の育成の工夫と関連するSP9を記入する欄を設けることで、教科横断的な視点の授業実践ができるように工夫した。

(3) 「SP9」掲示物の活用

「SP9」を黒板に簡単に示すことができる掲示物を係で作成し、各教科に配布した。パフォーマンス課題等を実施する際、生徒に身に付けてほしい力を示すのに活用した。また、掲示物は観点別に色分けされており、「SP9」のそれぞれの力がどの観点に位置付けられているのかを確認することができる。



「SP9」を観点別に示したもの

【知識・技能】(青)
基礎力

【思考・判断・表現】(緑)
見聞力 創造力
分析力 発信力

【主体的に学習に向かう態度】(赤)
自奏力 自彩力
連携力 寄与力

3 各教科の取組

「生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための課題設定の研究と開発」という研究計画の基、各教科で「パフォーマンス課題」の研究に取り組んだ。「パフォーマンス課題」とは、複数の知識やスキルを総合的に使いこなすことを求めるような複雑な課題を意味する。資料 14 のような学習活動をパフォーマンス課題の例とし、各教科で開発に取り組んだ。また、「パフォーマンス課題」を設定するにあたっては、実生活や実社会を想定することを基本とし、「単元の中心となる問い」を学習者自身が問わざるをえないようなシナリオを設定することとした。

資料 14 パフォーマンス課題となるような学習活動の例

- まとまった文章を書く。 - リーフレットを作る。 - 証明する。 - 実験を企画・実施・報告する。 - 企画を立てる。 - 作品をつくる。 - 学んだ知識・スキルを応用して問題解決に取り組む。	- 根拠を示しつつ主張を述べる。 - 現象を説明する。 - プレゼンテーションをする。 - 観察記録を書く。 - 曲を演奏する。 - 試合をする。
--	--

(1) 地歴・公民（政治・経済）

ア 実践内容

単元名	市場経済の機能と限界
パフォーマンス課題	あなたは、「サンパイン県」の知事です。今年は、キャベツが豊作でした。このことは、消費者にとっては利益なのですが、生産者にとっては不利益となります。そこで、国等と協力して、キャベツの一部廃棄を行うこととしました。 あなたは知事として、キャベツの一部廃棄が生産者の不利益を解消するということを、以下の数式・条件を基に県民に説明してください。 - 数式 需要関数：$q = 14 - p$ 供給関数：$q = 8$ - 条件 キャベツの生産量（q）が 8 から 10 に増えた。
単元の中心となる問い	市場メカニズムとは何か
授業内容（概要）	① 「経済的資源の希少性の制約の下で、〈何をどれだけ〉、〈どのような方法で〉、〈誰のために〉生産すべきか、生産された材やサービスをどのように社会の構成員に分配するか、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決する方法として、市場メカニズムに拠る方法が支配的である」という単元を貫く理論（＝概念的枠組み）を、需要曲線、供給曲線等の学習の復習により確認する。 ② パフォーマンス課題として、①で確認した理論（＝概念的枠組み）の枠に収まらない事例を提示し、生徒に考察させる。 ③ ②を踏まえて、「経済活動の中で発生する経済的選択の問題を社会的に解決する方法として、計画や統制による方法等がある」という理論（＝概念的枠組み）をつかませる。
活用する「SP9」	基礎力、分析力、発信力

イ 成果

- 「何となく」でぼんやりとしていたものを、数値化してとらえさせることができるので、知識の概念的な理解を一層深めさせる上で効果的である。
- 「大学の経済学部での学びは数学を用いる」ということを知るきっかけ、学問への導入という意味をもちうる。

ウ 課題

- 課題に取り組ませる前提として、「消費者余剰」、「生産者余剰」、「総余剰」といった教科書にはない概念を理解させることが必要となる。これらの概念を理解させるために時間を要した。深い学びの実現のためとはいえ、学習内容を逸脱することは妥当ではない。やはり、高等学校の「政治・経済」の学習内容で取り組めるパフォーマンス課題を設定すべきであった。

(2) 国語（古典B）

ア 実践内容

単元名	物語二『大鏡』『東風吹かば』
パフォーマンス課題	記者になったつもりで、本文の内容を新聞や雑誌の記事風にまとめよう。新聞や雑誌ごとに編集方針が異なる。条件にあうように書こう。
単元の中心となる問い	「大鏡」の作者は一連のできごとをどのような視点で書いたか。
授業内容 (概要)	① 前時までのノートを読んであらすじを確認する。 ② どの記事にまとめるか選ぶ。 ③ 読み手を想像しながら書く。
活用する「SP9」	分析力、自奏力、発信力

イ 成果

- ・ 古典分野の複数の知識や現代文分野の表現スキルを用い、古典作品を現実社会に置き直して考えさせることができた。
- ・ 同じ内容でも立場を変えて書くと違った印象になることを理解させることができた。

ウ 課題

- ・ 学習の目標を明確にとらえさせ、作品の読解を正確にさせたうえで課題に取り組ませる。
- ・ 課題終了後の評価の仕方までを計画する。

(3) 理科（生物基礎）

ア 実践内容

単元名	遺伝子とそのはたらき
パフォーマンス課題	「おもしろい生物学」 生物を習っていない人たち（例えば理系の物理選択者）に、分かりやすく生物を教えてあげよう。 遺伝子とそのはたらき（細胞周期とDNAの複製、体細胞分裂）に関する内容から紹介したいテーマを選び、レポート用紙にまとめなさい。
単元の中心となる問い	生物のからだを組み立てる設計図は何か。
授業内容 (概要)	① テーマを決める ② 説明する方法を決める。（物語形式、対話形式、小説形式、先生の授業形式、童話形式等） ③ 登場人物等を決める。（主役、その他の登場するもの、この話の背景の設定等） ④ 既習知識を活用して、レポートにまとめる。
活用する「SP9」	自奏力、分析力、創造力、発信力

イ 成果

- ・ 現象をことばだけではなくイメージで理解できるようになる。また、既習知識の正しい相関関係を理解することで、初見の問題にも対応できる応用力が身に付くのではないかな。
- ・ 他の人に説明することを前提に学習を進めるため、内容の定着度が高い。

ウ 課題

- ・ 興味・関心の低い生徒に関しては、教科書を写すだけで終わる場合もあり、取組に差がある。
- ・ 授業進度に余裕のある科目でなければ、課題に取り組ませることができない。

(4) 数学（数学B）

ア 実践内容

単元名	平面上のベクトル
パフォーマンス課題	座標平面上の3点を頂点とする三角形の面積をいろいろな方法で求めてみよう。
単元の中心となる問い	三角形の面積を求めるにはどのようにすればよいのか
授業内容 (概要)	この単元ではベクトルを用いて、三角形の面積を求めることを学習するが、他の既習知識でも求めることができないか思考させる。作図をすることにより、(長方形)－(3つの直角三角形)で求めたり、点と数学Ⅱで学ぶ直線の距離の公式や、数学Ⅰの三角比の考えを使ったりして、様々な方法で三角形の面積を求める。
活用する「SP9」	基礎力、分析力、発信力

イ 成果

- ・ 1つの問いに対して、解法が複数あることに楽しみを見いだしていた。
- ・ いくつかの解法を試行錯誤することで、自分に適した解法を見つけていた。
- ・ すぐには理解できなかった解法も、お互いに教え合うことで少しずつ理解していた。

ウ 課題

- ・ 誘導形式で出題したが、いくつかの公式が定着しておらず、上手く解答を作ることのできない生徒が多かった。
- ・ 今回、完答できた生徒は対象生徒の1割ほどで、生徒の理解度に応じた難易度の課題を設定する必要がある。

(5) 外国語（英語表現Ⅱ）

ア 実践内容

単元名	be Lesson5 代名詞
パフォーマンス課題	代名詞を用いながら、英語で行ってみたい国とその理由を発表しよう。
単元の中心となる問い	自分の考えを分かりやすく論理的に相手に伝えるためには、どのように工夫すればよいのだろうか。
授業内容 (概要)	① 前時に学習した代名詞について復習する。 ② 行ってみたい国を挙げ、その理由を英語で書く。 ③ その国の基本的情報や魅力について調べ、英語で書く。 ④ 教科書の例文を参考にしながら、相手に伝わりやすいよう発信する。 その間、他の生徒たちはメモをとる。
活用する「SP9」	分析力、見聞力、発信力

イ 成果

- ・ 前時に学習した代名詞を用いて発表することで、代名詞についての理解をさらに深め、正しい使い方を定着させることができた。
- ・ 与えられたテーマに関して、自分の意見を論理的に伝える方法について学ばせることができた。
- ・ 与えられた文をただ読むのではなく、自分の考えを英語で伝えることによって、やりがいを持って取り組ませることができた。

ウ 課題

- ・ 調べる時間を十分に設けることができなかったため、意見に対する理由が薄いものが見られた。
- ・ 生徒の考えた英文へのフィードバックや誤用の訂正など十分な事後指導を行うことが難しい。

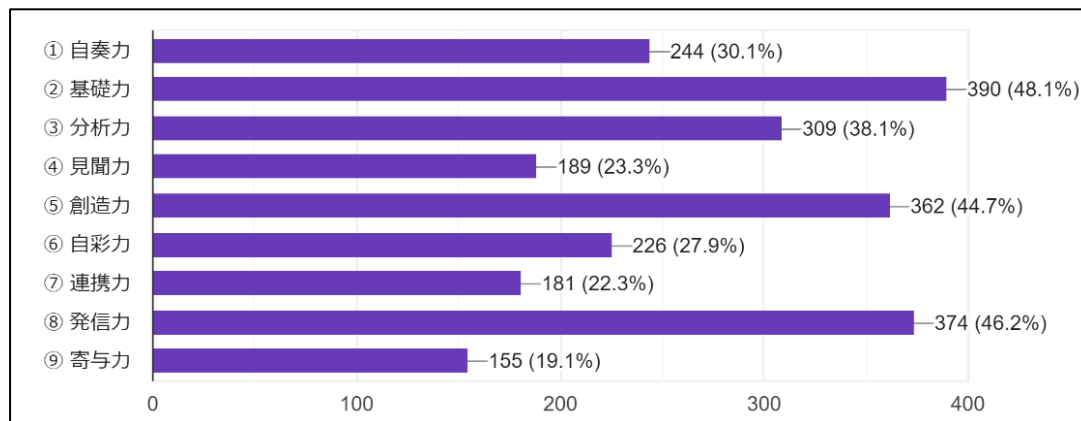
Ⅶ 研究の成果と課題

1 自己評価アンケート（９月実施分）の分析

９月に実施した自己評価アンケートでは、生徒自身に１年の前半の授業や学校行事等への取組を振り返らせ、伸ばしたい力を３つ記入させた。資料 15 は、その結果である。生徒が伸ばしたいと考えている力は、「基礎力」、「発信力」、「創造力」が上位であった。教師が生徒に身に付けさせたいと考えている「基礎力」は、生徒も伸ばしたいと考えていることが分かった。一方、教師が身に付けさせたいと考えている「自奏力」については、伸ばしたいと考えている生徒は３割程度であった。

カリマネ策定委員会では、生徒に「自奏力」を身に付けさせる、または身に付けたいと思わせる取組が必要なのではないかと分析した。そのためには、授業改善はもちろんのこと学校行事等でも生徒の主体性を育む企画を検討することや、その成功体験を積ませることが重要だと考える。

資料 15 今後、伸ばしたい力（810 件回答）



2 成果（各教科）

国語	コンピテンシー重視の「シラバス」や「単元配列表」を作成することを通じて、コンテンツベースを脱し「SP9」を意識して学習指導を行うことへの契機となった。
地歴・公民	- 課題設定の出発点は、教師が生徒に身に付けさせたい概念を明確にすることである。生徒に身に付けさせたい理論（＝概念的枠組み）を抽出するための、教科書や新学習指導要領解説の「読み取り方」について研究を深めることができた。 - パフォーマンス課題を通して学習内容を身近で具体的な生活に結び付けることは、生徒の「どうしたらいいのだろう」、「解決したい」という意識を喚起する。このことが、生徒の「発信力」や「分析力」、「連携力」の向上につながるということを実感することができた。
数学	教師の授業での問い掛けや生徒の表現力が高まった。また、生徒の活動が活発化したように感じる。
理科	観点別評価が定着してきたことで、定期考査以外で評価をすることに職員が慣れてきた。今後は、単元ごとに目標や評価規準を設定し、パフォーマンス課題を設定したり、単元テストを実施したりすることで「指導と評価の一体化」を図れるのではないか。
外国語	「指導と評価の一体化」を意識し、評価の結果に応じて指導方法を改善しながら、生徒に身につけてほしい力の伸長を図ることができた。 - 教師の問いに対して、生徒が think-pair-share（１人で考え→ペアで共有し→クラスで共有する）をすることで、テーマに関する自らの意見を考える習慣や、他者の考えを聴く傾聴力をつけさせることができた。

3 課題（各教科）

国 語	・ 今年度は「SP9」を基に学校教育目標の達成を図っていこうとする端緒の年であり、徐々に意識改革は進んでも具体的な学習活動（学習指導）に反映させていくまでに至らなかった。今後は、シラバスや単元配列表を実際に活用して学習指導を行うことが求められる。 ・ 教科等横断については、各教科の単元目標の「SP9」が共通していれば、ことさらに学習内容を関連させる必要がないので自由度が高まるのではないか。先に横断ありきではなく、まずは学習目標の設定に立ち戻り、どのような横断が必要で効果的なのかを考えていかなければならない。 ・ テストやワークシートにも目標となる「SP9」を明示することで学習目標が明確になり、動機付けになるのではないか。一方で、目標を明確にしすぎることは、自分で目標を見つけられない受身の生徒を育てることにつながらないかとの懸念もある。
地歴・公民	・ 生徒の資質・能力を育成する上で、単元の終末毎などに定期的・継続的にパフォーマンス課題に取り組ませることが不可欠だが、授業進度や課題設定等の準備の観点から、効果的なパフォーマンス課題を定期的・継続的に実践していくことは容易ではない。
数 学	・ 今後も生徒主体の授業づくりをする必要がある。また、「SP9」を意識した授業改善に更に取り組みたい。
理 科	・ 生徒に成功体験を積ませることで自己肯定感を高めさせる必要がある。その体験が「自奏力」や「基礎力」を高めたという生徒の向上心に繋がると考えられる。
外 国 語	・ 単元によっては、時間的制約などが理由でパフォーマンス課題を行うことができなかった。 ・ パフォーマンス課題などを通して、生徒が主体的で深い学びをするためには、指導者の適切な声かけなどによる、足場かけが必要だと感じた。

4 まとめ

- ・ 生徒に身に付けさせたい資質・能力を教科等横断的に育成するためには、カリキュラム・マネジメントの充実が必要不可欠である。よって、今年度は「学びのグランドデザイン」、「コンピテンシー重視のシラバス」、「単元配列表」等を作成することで、生徒や職員の意識を変えることに力を入れた。また、「SSTP」を活用したり「パフォーマンス課題」を設定したりすることで授業改善に取り組んだ。現状では、「パフォーマンス課題」等に取り組むための時間が足りないことが問題点である。今後は、自己評価アンケートの分析を基に系統立てたカリキュラム・マネジメントを実施し、PDCAサイクルを確立する必要がある。また、各教科の授業改善だけではなく総合的な探究の時間や学校行事等でも資質・能力を育成する視点で企画・立案をする必要性を感じている。
- ・ 本校では、既に観点別評価を導入してはいるが、ペーパーテストや簡単に見取れる部分だけの評価になっていることも否めない。資質・能力は、単元や題材などのまとまりを通して育成するものであり、育成され成長した生徒の姿や状況を観点別評価に反映させる必要がある。今後は、「内容のまとまりごとの評価規準」や「単元の評価規準」を各科目の評価の観点の趣旨を踏まえて作成し、評価の在り方について研究を深める必要がある。また、「指導と評価の一体化」を図るためにも評価場面や評価方法の工夫・改善を図りつつ、評価を指導に生かす取組を行っていききたい。